

ごあいさつ



開業から10年目の今年、アイ・ケア・クリニックがついに錦糸町駅直結となりました。地元の皆様からの信頼に応えるべく、心優しいスタッフと共に頑張ってきましたが、遠方からの患者様も多いため、利便性が

さらに向上することで、一層広範囲の地域医療に貢献できるようになりました。「患者様に寄り添う」事を第一と考え、患者様と共に悩み、一人一人に最善の治療法をという私たちの願いが、更に多くの患者様に届くよう、尚一層の努力を続けて参ります。私たちは患者様と共に歩むクリニックです。

眼科 かじわら アイ・ケア・クリニック
院長 梶原 一人

院長経歴

慶應義塾大学医学部卒業

ハーバード大学医学部留学

博士(医学)慶應義塾大学

スタンフォード大学医学部留学

慶應義塾大学医学部特別招聘教員

スタンフォード大学医学部(リサーチ・アソシエート)

東京大学医科学研究所化学研究部客員研究員

理化学研究所脳科学総合研究センター

(神経再生研究チーム・チームリーダー)

(中略)

眼科 かじわら アイ・ケア・クリニック 開設

医療法人社団一義会 設立



医療法人社団 一義会

眼科かじわら アイ・ケア・クリニック

Kajiwara Eye Care Clinic



(カジワラビー)

合い言葉は



安全と安心

130-0013 東京都墨田区錦糸3-2-1 アルカイースト2F

TEL 03-3626-1928
http://www.eyecareclinic.info



LINE

眼科かじわら
アイ・ケア・クリニック



LINE

クリアビジョン
コンタクトレンズ

診療内容

- ① 一般総合眼科
- ② 小児眼科
- ③ 白内障検査
- ④ 緑内障検査
- ⑤ 糖尿病・高血圧・動脈硬化の検査
- ⑥ 人間ドッグ後の精査
- ⑦ 薬物治療
- ⑧ コンタクトレンズ処方
- ⑨ レーザー治療
- ⑩ 大学病院・専門施設紹介

診療時間

診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
10:30-13:00	●	●	●	●	●	●	●
15:00-19:00	●	●	●	●	●	●	●

【診療受付時間】10:30-13:00・15:00-19:00

【休診日】年中無休(年末年始・研修を除く)

交通案内



130-0013 東京都墨田区錦糸3-2-1 アルカイースト2F

TEL 03-3626-1928

JR 錦糸町駅 徒歩0分
地下鉄半蔵門線 錦糸町駅直結 3番出口

One for all. All for one

ひとりはおみんなのために。みんなはひとりのために。

一人は他の全スタッフと患者さまのために考え行動し、
全スタッフは一人一人の患者さまとスタッフのために考えて行動します。

—— 当院が大切にしていること ——

「丁寧な問診・検査・診察、正確な診断と重症度の評価、それに基づく確かな治療計画の立案」これが理想の医療のあるべき姿だと私たちは考えます。その実現のため、私たちは日頃から研修を積み、知識を更新し、時間をかけて問診をして患者様の声に耳を傾けています。

また、「医療とは究極のサービス業」だと私たちは考えています。サービス業である限り、サービスの質が問われます。医療サービスの質とは、第一に高い医療レベルです。私たちのクリニックでは手術が必要な患者様には適切な医療施設をご紹介しますが、手術以外で患者様が当クリニックでの治療を望む場合は、それに応じるだけの検査・診断設備・治療薬を整えています。

そしてただ単に医療レベルが高いだけでなく、患者様と共に悩み「患者さんに寄り添う医療」が私たちのクリニックが真髄としている医療サービスです。

—— 私たちは本気です ——

本気で患者様の目の健康のための最善の選択肢を提供することを第一義と考えています。私たちは本気です。

得意とする診療

1. 糖尿病性網膜症・黄斑変性症・網膜剥離・緑内障に対する網膜光凝固術(レーザー治療)。1年に200件近い治療実績があります。
2. 緑内障の正確な診断と嚴重な治療(1000人を超す患者様が緑内障で通院しています)。
3. アレルギー性結膜炎・ドライアイ・眼精疲労の診断と治療
4. 安全で安心なコンタクトレンズと眼鏡の処方

当院の様子



明るい院内

A B C 駅直結の入りやすい入口と明るい院内。患者様とスタッフの距離が近い開かれた雰囲気が私たちのクリニックの最大の特徴です。



最新鋭の検査機器

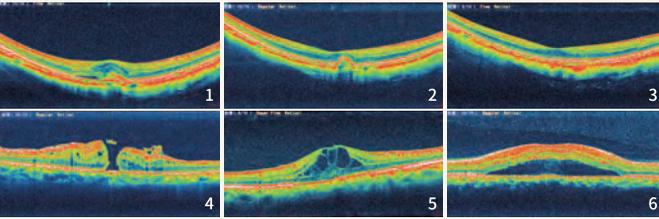


D NAVIS (画像ファイリングシステム) により全データがいつでも呼び出し患者様への説明や紹介状に。E ハンプリー視野計により緑内障等の視野検査を行います。F Zeiss社のFDTはハンプリー視野計では検出できない軽度の視野異常・感度低下も検出します。G Zeiss顕微鏡に搭載されたレーザー装置。大病院に転院せず日帰りで治療が受けられます。



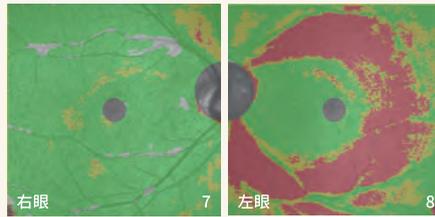
H KOWA無散瞳眼底カメラは日常診療に不可欠なほか、健康診断でも威力を発揮します。I NIDEK社のOCT (光干渉断層計) RS-3000 Advanceにより、視野に異常の無い、極く初期の緑内障まで診断できます。また、糖尿病性網膜症、黄斑変性症の詳細も手に取るように分かり、悪化・改善の判断が出来ます (下記説明参照)。

OCTで一目で診断できる網膜・視神経の病気



OCTの断層モード

(1-3は同一症例です) ① 加齢黄斑変性により網膜中心部が極度に変形し矯正視力は0.2まで低下。② 1回のアバスタチン治療により僅か60日余りで劇的に改善し、矯正視力は1.0まで改善しました。③ 約7ヶ月後にはほぼ正常な形態に戻り1.0の視力を保っています。④ (黄斑円孔の症例) 網膜中心部に縦穴が開いてしまい、矯正視力は0.2まで低下。⑤ (黄斑浮腫の症例) 網膜中心部の組織内に水が溜まり、むくんでいます。⑥ (中心性漿液性網脈絡膜症の症例) 網膜の下に水が溜まり網膜剥離が起こっています。



OCTの緑内障解析モード

⑦ 網膜を正面から見た像の中で、右眼の緑の部分は全て正常。⑧ これに対して左眼の赤色で示された網膜は神経細胞の数が極端に減少し、緑内障であることが分かります。この部分の視野が欠けていますが、視野欠損があるかないかの検査をしなくても診断がつくので、緑内障検査の強力な武器となりました。

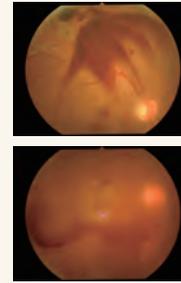
何故眼科を受診する必要があるのでしょうか？

自覚症状の無いうちが何より大切です

人生の或る時に、もし失明してしまったら… (中途失明)。ほとんど全ての仕事を失い、明日からの生活にも困窮します。恐ろしいことに、そのほとんどが自覚症状が全くなく進行しており、気付いたときには取り返しのつかないことになっています。何も自覚症状の無い今こそチェックを受ける時です。

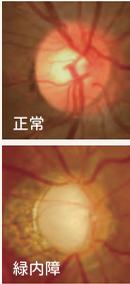
糖尿病・高血圧は眼底出血を見れば何をすれば良いか分かります。

糖尿病は国内に890万人もいると言われ、治療を受けているのは僅か237万人に過ぎず、残りの7割以上は未治療です。即ち、「自覚症状が無い」ために気が付かず、たとえ健康診断や人間ドックで指摘されても軽く考えて、目の網膜に高度の障害を来してから後悔することが非常に多い現代病です。特に「増殖性」と呼ばれるタイプの網膜症は、僅か数週間から数ヶ月間で急激に進行して失明に至ることもあります。高血圧もまた出血を伴ってくると視力が戻らなくなることが多い疾患です。早期発見と適切な治療による網膜の保護、内科医との連携による血糖・血圧のコントロールが不可欠です。写真上は「黒いゴミのようなものが飛び始めた」という主訴で来院したときの眼底で、まだ出血は限局し視力も良好でしたが、短期間に出血が広がって下の写真のように視力障害が進みました。



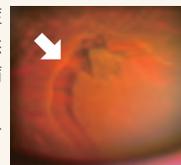
緑内障は若いときに始まっている？

その通りです。視神経の細胞が次第に死滅して減少し、対応する場所が見えなくなる病気で、我が国の失明原因の第1位です。20人に一人が緑内障と言われています。視野の中心部は末期までよく見えているため全くと言って良いほど自覚症状がなく、人間ドックで異常が見つかるか、たまたま別の症状で眼科を受診して見つかることがほとんどです。当院には左ページにあるようなOCT等の最新鋭の検査機器により非常に早期に病気が見つかり、1000人以上の緑内障患者さんが通院し良好な治療成績を収めています。写真上は正常者の視神経乳頭 (中央部の明るい部分の大きさは小さく全体は色が濃い)、下は進行例の緑内障患者 (視神経の数が極端に減って凹んでしまい明るく見える萎縮部は外縁まで広がり蒼白色になっている)。



飛蚊症・網膜剥離・眼底出血は深い関連のある疾患です。

ゴミや虫のようなものが飛んで見える症状を飛蚊症と言いますが、眼内の光の通り道に小さな濁りが自然発生して起こるものと、網膜剥離や眼底出血 (糖尿病や高血圧との関連が多い)、ぶどう膜炎が原因で起こるものがあり、後者は原因を治療しなければなりません。年齢に関係なくおこる事が多くあります。原因を突き止めるためには、目薬で瞳を一時的に大きくした状態で眼底検査する必要があります。右の写真は網膜に大きな裂け目が出来て網膜剥離を起こし、その時の出血が原因で起こった飛蚊症でした。すぐにレーザーで治療し、入院・手術をせずに済みました。

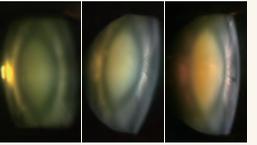


人間ドックで眼科の欄に異常があればすぐに精査を受けましょう。

特に「眼底出血」「視神経乳頭陥凹拡大」「網膜視神経繊維束欠損」「緑内障疑い」「黄斑変性症」などの言葉があったら要注意です。既に病状が眼底写真でも判定できるくらい進行している可能性があります。聞いたことも無い病名が書かれているので重要なことでは無いのでは?と放置して後悔する人が多いのです。

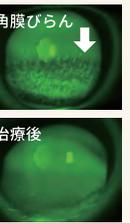
白内障はどこで手術すれば良いのでしょうか？

白内障は目の中のレンズ (水晶体) が加齢と共に濁ってくるために視力障害を起こす病気です。視力障害が軽度の時は点眼治療をします。進行して生活に不便になってくると手術が必要です。当院では定期検査で手術のタイミングを見計らい、白内障手術専門に行なっている施設や大学病院・公立病院など患者様一人一人に一番適した施設をご紹介します。写真は8年間経過観察をした患者さんです。水晶体の中心部に白濁 (白内障) が次第に進み、手術に踏み切りました。



目の疲れ (眼精疲労) ・ドライアイ ・視力低下

目の疲れはほとんどの場合眼表面の乾燥かアレルギー性結膜炎、またはその両方関わっていることが知られており、正しく治療すれば改善することが多いのですが、中には眼鏡の左右の度数が違いすぎたり、矯正が強すぎたり、緑内障や黄斑変性症などのために視機能の低下が疲労につながることもあります。目を使いすぎたと言っても、原因が無ければ極端に疲れるものではありません。写真上は重篤なドライアイで角膜表面にびらん (細かな浅い傷) が出来て、疲れ目と異物感の強かった状態、写真下は角膜保護作用のある点眼で治療した後の状態です。



コンタクトレンズは正しく使っていますか?カラコンで安全ですか?

コンタクトレンズはとても便利なもので、生活の一部となってしまうと面倒さがあって正しくない使いかたをする人がいます。実はコンタクトレンズは心臓のペースメーカーと同じ危険度の「高度管理医療機器」に指定されているので、事実上は野放しになり、障害を起こす人が非常に増えています。特にネット販売には注意が必要です。また、最近は劣悪な素材のカラーコンタクトレンズが売られていて、レンズ自体が裂けてしまったり色素漏出の問題も起きています。



花粉症のくしゃみ・目の痒みは薬ですぐに楽になりますか?

なります! 花粉症 (花粉によるアレルギー) が原因で、目が充血して激しい痒みが起こったり、くしゃみ・鼻水・鼻づまりが続く状態) は点眼薬、内服薬、点鼻薬で多くの人がすぐ楽になります。薬を毛嫌いしたり躊躇したりする人がいますが、ナンセンスです。コツは、症状の出る季節になったらすぐに治療を開始することです。出来れば症状が出る前に対処しましょう。もちろん、マスクやゴーグルその他で花粉を排除することも極めて重要です。

